

令和3年小田原市議会 12月定例会

総務常任委員会資料

資料名	所管課	頁
第6次小田原市総合計画行政案（基本構想）に対する市民意見の募集結果について	企画政策課	1

令和3年12月2日

第6次小田原市総合計画行政案（基本構想）に対する市民意見の募集結果について

1 意見募集の概要

政策等の題名	第6次小田原市総合計画行政案（基本構想）
政策等の案の公表の日	令和3年（2021年）8月13日（金）
意見提出期間	令和3年（2021年）8月13日（金）から 令和3年（2021年）9月13日（月）まで
市民への周知方法	意見募集要項の配布（市内公共施設、ホームページ、 広報紙）

2 結果の概要

提出された意見は、次のとおりです。

意見数（意見提出者数）	13件（9人）
インターネット	8人
ファクシミリ	1人
郵送	0人
直接持参	0人
無効な意見提出	0人

※ 第6次小田原市総合計画行政案全体に対しては、232件（61人）の意見がありましたが、基本構想に関する内容のみを抜粋しています。

3 提出意見の内容

パブリックコメントで提出された意見の内容とそれに対する市の考え方は、次のとおりです。

〈総括表〉

区分	意見の考慮の結果	件数
A	意見を踏まえ、政策等に反映したもの	1
B	意見の趣旨が既に政策等に反映されているもの	6
C	今後の検討のために参考とするもの	5
D	その他（質問等）	1

4 意見に対する考え方

意見 番号	ご意見	反映 区分	ご意見に対する考え方
1	<p>「基本構想 1まちづくりの理念と2030年に目指すまちの姿」の、1行目「森里川海がひとつらなり…」という表記がわかりづらい。違う言い方や、「」、・を使うとか、ひとつらなりという文言を変えるなど市民にすんなり容易に入ってくる表現にしてほしい。</p>	A	<p>市民にとって分かりやすい表現に努めるとともに、分かりにくい語句には注釈等を追記していきます。</p>
2	<p>アンケートの「市民と行政がともにまちづくりを進めるうえで何が重要か」の結果に対して、「市の情報の公開、提供」とありますが、その対応はされておりますでしょうか。</p> <p>「市のホームページを見れば載っている」と考えてはおりませんか。ただ情報公開するだけでは不十分と捉え、情報を浸透させるための解決策を探って頂きたいです。市が頑張って準備されたサービスや支援はあるのに、それを必要としている方々に行き届いていない事も多々あると考えます。</p>	B	<p>今後も SNS や動画等、様々な広報手法を積極的に活用するとともに、これまで以上に庁内の担当課と連携を図ることで、より効果的な情報発信を行い、情報を必要とする市民に行き届くよう展開していきます。</p>
3	<p>役所内は縦割りの組織となっており、その中で真面目に仕事をすればするほど、よりその組織に染まっていき、自分のことしか見えないという悪循環に陥っているように見受け</p>	B	<p>社会が複雑化する中、多くの課題への対処が組織横断的かつ柔軟な対応が求められている認識を持ち、総合的な対応が必要なものについては、重点施策にも位置付けながら取組を</p>

	<p>られる。しかしながら、多くの課題は組織横断的に解決する必要があり、柔軟な対応が求められることがほとんどである。</p> <p>特に、空き家を含む既存ストックの活用、移住定住による人口増等の施策については、総合政策的な課題が多い。これらの課題について横断的に意見交換等出来る場を積極的に設けていただきたい。</p>		<p>進めていきます。また、市民や関係機関との対話の場を積極的に設ける等、官と民が連携を取れる体制を構築していきます。</p>
4	<p>公民連携という言葉がやっと役所側から出てくるようになったが、一時、官民の癒着による不正が横行した以降、官と民との距離は遠くなっており、今の行政内には、そのネットワークもなく、どうやって官側から民へアプローチしたらよいか？わからないケースが多々あると思われる。まずは、各課題に対して官と民との対話の場を積極的に設ける必要があると考える。</p>	B	<p>これまで以上に魅力的で持続可能なまちづくりの実現を目指すためには、民間事業者との連携を飛躍的に強化・推進する必要があると考え、小田原市で取り組むすべての事業を提案募集の対象に民間事業者からの提案募集を開始しました。今年度は試行として、市内に事業所を有する法人若しくは個人事業主又は法人等のグループとしています。</p>
5	<p>総合計画を活きたものにするために、官と民が常に気軽に対話できる体制づくりを望む。</p>	B	<p>小田原市民間提案制度を活用し、官と民が連携を取れる体制を構築していきます。</p>
6	<p>小田原市は第5次総合計画「おだわらTRYプラン」に基づき、「市民の力で未来を拓く希望のまち」を目指し、市民力や地域力を生かした課題解決への取組が行われ、その取組</p>	B	<p>第6次総合計画では、わが国でも特筆すべきレベルに成長した市民力や地域力を土台とし、持続可能なまちを実現していきます。また、重点施策では、福祉・防災の領域を中心</p>

	<p>が評価され、SDGs 未来都市及び自治体 SDGs モデル事業にも選定されたと思いますが、第6次総合計画においても、この市民力、地域力を強化し、課題解決への取組拡大を加速していくことを、基本構想のまちづくりの基盤強化として目標にかかげ、最重点施策として取り組むべきではないでしょうか？</p>	<p>に、市民の力・地域の力を生かした取組を位置付けています。</p>
<p>7</p> <p>誰もが豊かな生活を送りたいと思うし、誰もが安心して生活したいと思っているでしょう。</p> <p>病気になったら安心して治療が受けられる体制、質の高い教育を受け社会を豊かにしていく人材の育成などは、誰しものが必要と思いつつも、コストがかかります。そのコストを市民として負担していこうとすると、残念ながらそのコストを負担しようとする市民層や負担できる所得層がいなければ、豊かな社会を築くことは出来ません。</p> <p>本行政案の「(1) 生活の質の向上」「(2) 地域経済の好循環」「(3) 豊かな環境の継承」は小田原市の10年後の目標として賛成できます。</p> <p>人口増加と企業誘致は上記目的を達成するに有効な手段と考えます。</p>	<p>B</p> <p>医療、福祉、教育等の充実による「生活の質の向上」と、企業誘致や新しい働き方に対応した環境作り等による「地域経済の好循環」、そしてこれらの土台となる「豊かな環境の継承」という3つのまちづくりの目標に向けた取組により、小田原の魅力を高め、人を呼び込んでいきたいと考えています。</p>	

	<p>私は不動産・保育所やその他事業を 経営しております。その中で満足な ことは、豊かな自然と温暖な気候、 都市的サービスも受けながらも東京 ではない東京とは同じでない町を心 地よく感じています。</p> <p>人口増加を自然破壊と唱える方もい るかもしれませんが、放置された空 き家、耕作されていない農地、整備 されていない森林・河川管理や海 岸・護岸整備など人口が減ってい ても自然破壊が進んでいます。これは 人口問題と関係のない問題です。</p> <p>それは人口が 20 万人になっても、 豊かな自然を守る施策ができれば、 今以上に豊かな自然を生み出すこと ができます。</p>		
8	<p>「世界が憧れるまち“小田原”」に ついて、ぜひ多くの市民に対して、 この言葉を聞くたびに、どのように 感じるかを聞いてほしい。市長は選 挙の時、ひとり 10 万円と書いた上 に前市長が 1 か月前に出した政策を 自分の政策のように公報に書しまし た。本当に政治家として恥ずかしい 行為です。ですからこの言葉を聞く たびに市民は失笑してしまいます。 もうこのフレーズはやめませんか。</p>	C	<p>日本の都市は、世界から見ても治 安、環境衛生、医療等の面で優れて おり、とりわけ小田原には、こうし た要素に加えて、歴史・文化・自 然・交通インフラといった、他都市 が羨むほど多くの地域資源が整っ ていることから、その魅力を十分に引 き出すことにより「世界が憧れるま ち“小田原”」を実現していきます。</p>

9	<p>デジタル化の推進については、時代の流れからも進める必要はありますが、大事なのは住民の合意と個人情報の保護です。そのため、大胆に進めるのではなく、まずは市役所の業務に関する事で、できることから始めるべきだと思います。市の行う説明会への参加が電話予約のみということがありました。メールで申し込むことも可とする、そんなことから始めるべきです。そして、スーパーシティの再提案には、応じないようにすべきです。「岩盤規制の大胆な緩和」を求められているので、住民の合意を得たうえで提出し直す時間ありませんから。</p>	C	<p>小田原が有するポテンシャルにデジタル技術と規制改革を組み合わせることで地域課題を解決し、持続可能な小田原の実現を目指しています。よって、スーパーシティ構想の採択に向け、引き続き取り組んでいきます。</p>
10	<p>「世界が憧れるまち“小田原”」という市の、市長のキャッチフレーズに、市民が呆れはてています。市民にとっては「私の町いい町だよ」と言える町であればいい。そんな町作り計画を作ってください。</p>	C	<p>多様化する価値観を的確に捉えながら、住んでいる方が、これからも暮らし続けたいと思う施策とともに、小田原に住みたいと思う方を増やすことができる施策を総合計画にまとめ上げていきます。</p>
11	<p>デジタルまちづくりについて、国の施策にいち早く乗って小田原市をアピールしたいようですが実力が伴っていません。じっくり職員の能力を育てる基本的なプランでじっくり進めて下さい。</p>	C	<p>「デジタル技術を最大限に活用し、持続可能で活力のあるまちづくりを推進することで、豊かな未来社会を実現する」という理念のもと、デジタル化によるまちづくりに取り組んでいきます。</p>

12	<p>まちづくりの推進エンジンに「(2) 公民連携・若者女性活躍」があるのは素晴らしい。しかし、この計画案全体に女性活躍に力を入れているという感触が伺えない。総合計画なのでこういう記載になるのかもしれないが少し残念である。</p>	C	<p>市役所が一丸となり、若者や女性が活躍できるまちづくりに向けて、取り組んでいきます。</p>
13	<p>市民力や地域力とはどのようなものですか？</p>	D	<p>本市では、福祉、防災、環境等の領域で、日々の実践活動や地域の課題解決に取り組む市民や地域コミュニティ組織、市民活動団体等が数多く存在しており、その推進力を市民力、地域力と表現しています。</p>